

第15回新市民会館整備等調査特別委員会会議記録

日 時 令和3年2月10日（水曜日）
場 所 水戸市議会 第1・第2委員会室

午後 1時 1分 開議
午後 2時14分 散会

付託事件

(1) 新市民会館及び周辺地域の整備に関する事項

1 本日の会議に付した事件

(1) 新市民会館の運営費等について

2 出席委員（26名）

委員長	渡 辺 政 明 君	副委員長	高 倉 富 士 男 君
委員	滑 川 友 理 君	委員	萩 谷 慎 一 君
委員	土 田 記 代 美 君	委員	田 中 真 己 君
委員	中 庭 次 男 君	委員	佐 藤 昭 雄 君
委員	綿 引 健 君	委員	後 藤 通 子 君
委員	田 口 文 明 君	委員	森 正 慶 君
委員	鈴 木 宣 子 君	委員	黒 木 勇 君
委員	飯 田 正 美 君	委員	小 泉 康 二 君
委員	大 津 亮 一 君	委員	須 田 浩 和 君
委員	栗 原 文 隆 君	委員	袴 塚 孝 雄 君
委員	五十嵐 博 君	委員	小 川 勝 夫 君
委員	安 藏 栄 君	委員	田 口 米 蔵 君
委員	松 本 勝 久 君	委員	福 島 辰 三 君

3 欠席委員（1名）

委員 木 本 信 太 郎 君

4 委員外議員出席者（1名）

議長 内 藤 丈 男 君

5 参考人として出席した者（1名）

公益財団法人
水 戸 市
芸術振興財団
常 務 理 事
大 津 良 夫 君

6 説明のため出席した者の職、氏名

副市長	田 尻 充 君	副市長	秋 葉 宗 志 君
市長公室長	小 田 木 健 治 君	政策企画課長	宮 川 孝 光 君

交通政策課長	須藤文彦君		
総務部長	園部孝雄君		
財務部長	白田敏範君	財務部参事兼 財政課長	梅澤正樹君
市民協働部長	川上幸一君	市民協働部 副部長	小嶋いつみ君
市民協働部 技監	太田達彦君	文化交流課長	三宅陽子君
新市民会館 整備課長	篠原芳之君		
産業経済部長	鈴木吉昭君	産業経済部参事兼 商工課長	長谷川昌人君
建設部長	渡邊雅之君	建設部技監兼 建設計画課長	大森幹司君
建築課長	大和田聡君		
都市計画部長	加藤久人君	都市計画部技監兼 泉町周辺地区 開発事務所長	大和直文君
都市計画課長	柴崎美博君		
7 事務局職員出席者			
事務局長	小嶋正徳君	事務局次長 兼総務課長	関谷勇君
議事課長	永井誠一君	法制調査係長	富岡淳君
書記	武田侑未子君	書記	堀江良君

午後 1時 1分 開議

○渡辺委員長 引き続き、御苦労さまでございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから第15回新市民会館整備等調査特別委員会を開催いたします。議事に先立ちまして、木本委員が忌引のため欠席との連絡がありましたので、御報告します。

この際、御報告を申し上げます。本日、一般傍聴人9名がお見えになりますので、よろしくお願ひします。

[傍聴人入室]

○渡辺委員長 本日も参考人として、公益財団法人水戸市芸術振興財団、大津常務理事に御出席いただいておりますので、御了承願ひします。

それでは、これより議事に入ります。

本日の案件は、新市民会館の運営費等についてでございます。前回の委員会で請求いたしました資料につきまして、本日、執行部から提出を受けておりますので、御説明願ひします。

篠原新市民会館整備課長。

○篠原新市民会館整備課長 それでは、新市民会館の運営費等について、市民協働部新市民会館整備課提出の特別委員会資料①により御説明いたします。

本日は、前回の特別委員会において資料請求がありました事項について、御説明をさせていただきます。

資料の1ページを御覧ください。

1、指定管理者公募の際の上限額と類似施設の決算額との比較でございます。

前回の特別委員会でお示ししました新市民会館の運営費の試算額と類似施設の平成30年度の決算額を比較したものが次の表となります。ただし、新市民会館の自治体負担額につきましては、指定管理者公募の際の上限額であります。

表を御覧ください。

これまで類似施設として説明してまいりました3施設に加え、新たに2,000席規模のホールを有しており、新市民会館と同じような施設構成かつ延床面積が新市民会館より大きい施設であります所沢市民文化センターと新潟市民芸術文化会館についてお示しをしております。

右の表から3列目、所沢市民文化センターの延床面積は2万9,115平方メートルであり、施設内容は2,002席の大ホール、798席の中ホール、342席の小ホールのほか、リハーサル室が3室、楽屋が17室、展示室が2室、会議室が4室、和室が2室となっております。

表の右から2列目、新潟市民芸術文化会館の延床面積は2万5,099平方メートルであり、施設内容は2,000席の大ホール、903席の劇場、387席の能楽堂のほか、リハーサル室が10室、楽屋が19室、展示室が1室となっております。

表の一番右側の新市民会館の延床面積は2万2,876平方メートルであり、施設内容は2,000席の大ホール、482席の中ホール、小ホールのほか、楽屋が16室、展示室が1室、会議室が11室、和室が2室、板の間が1室、スタジオが7室となっており、所沢市民文化センターと新潟市民芸術文化会館と比べて諸室が多い施設となっております。

管理運営費の欄を御覧ください。

管理運営費の支出の総額とその内訳として、施設運営費、施設管理費、光熱水費を記載しております。施設運営費は、人件費と消耗品や印刷製本、通信運搬費などの合計金額となります。施設管理費は、設備の保守点検費や清掃費、警備費などの合計金額となります。光熱水費は、電気使用量、水道料金、下水道使用料、都市ガス料金などの合計金額となります。

決算額を示しております5つの類似施設を比較いたしますと、管理運営費の支出額の合計は、新潟市民芸術文化会館が最も高く6億6,200万円、次いで所沢市民文化センターが4億円であり、新市民会館は4億7,000万円となっております。

施設運営費は、新潟市民芸術文化会館が最も高く3億5,900万円、次いでウエスタ川越が2億500万円であり、新市民会館は1億9,600万円となっております。

施設管理費は、所沢市民文化センターが最も高く2億2,900万円、次いで新潟市民芸術文化会館が2億600万円であり、新市民会館は1億8,400万円となっております。

光熱水費は、新潟市民芸術文化会館が最も高く9,700万円、次いで宇都宮市文化会館が7,200万円であり、新市民会館は9,000万円となっております。

表の下から3段目の自治体負担額を御覧ください。

自治体負担額は、新潟市民芸術文化会館が最も高く8億1,400万円、次いで所沢市民文化センターが4億4,300万円であり、新市民会館の負担額の上限はこれらの施設より低く3億7,000万円となっております。

表の最下段の自治体負担率を御覧ください。

自治体負担率は、所沢市民文化センターが最も高く71.3%、次いで新潟市民芸術文化会館が69.6%となっており、水戸市の自治体負担率は、これらの施設より低く63.8%となっております。

ページを返していただいて、裏面2ページを御覧ください。

2、施設管理費及び光熱水費の比較でございます。

新市民会館は、多くの交流人口を創出し、中心市街地の活力向上やまちの活性化を促進するため、ホール、会議室、スタジオ等の貸館スペースに加え、中心市街地に立地している条件を生かし、学生、高齢者、親子連れ、市民などあらゆる人々が日常的に訪れたいくなるように、やぐら広場やラウンジギャラリー、こどもギャラリーなどの施設を設けております。これらの施設が充実していることが、新市民会館の特徴的な施設構成となっております。

ア、施設管理費について、1平方メートル当たりの単価の比較を記載してございます。5つの施設を比較いたしますと、新潟市民芸術文化会館が最も高く8,207円、次いで所沢市民文化センターが7,865円であり、新市民会館は8,043円となっております。

次に、イ、光熱水費につきまして、①といたしまして、1平方メートル当たりの単価の比較を記載しております。5つの施設を比較いたしますと、宇都宮市文化会館が最も高く4,241円、次いでウエスタ川越が4,077円であり、新市民会館は3,934円となっております。

②は新市民会館の光熱費見込額の内訳を記載しております。電気使用料が8,300万円でございます。このうち、ホールや会議室、スタジオ等の貸出しをする部分に係る電気使用料は6,200万円、やぐら広

場やエントランスロビー、ラウンジギャラリーなど自由に利用できるスペースに係る電気使用料は2,100万円を見込んでおります。市民をはじめ多くの人が自由に利用できるスペースについても、日常的な利用があるため、類似施設と比べて空調等に要する電気料が高くなると見込まれます。

水道料金は200万円、下水道使用料は400万円、都市ガス料金は100万円を見込んでおります。これらをあわせて9,000万円となります。

次に、3、指定管理者公募の際の上限額の精査についてでございます。

新市民会館については、指定管理者公募に向け、水戸芸術館と連携し、公募内容の検討とあわせて、自治体負担額の上限額を精査することとし、上限額の減額に努めてまいります。

続きまして、水戸市新市民会館の運営が茨城県にもたらす経済波及効果について、市民協働部新市民会館整備課提出の特別委員会資料②により御説明をいたします。

新市民会館の開館後の運営費や来館者及び公演主催者の消費支出などによる経済波及効果を推計した結果、年間で約48億円となりました。

経済波及効果の算出に当たっては、新市民会館の運営により発生する需要額を基に、茨城県が公表している産業連関表を用いた経済波及効果分析シートを用いました。

新市民会館の運営により発生する需要額は、上段枠に記載のとおり39億1,000万円となり、この額の内訳は、A管理運営に係る経費、B人件費のうち消費される額、C来館者等の消費支出の合計となります。

先ほど御説明したとおり、この需要額を基に、経済波及効果分析シートを用いて試算した経済波及効果は48億3,000万円となります。

経済波及効果は、①直接効果額、②第1次間接効果、③第2次間接効果の合計額となります。

①直接効果額は、新市民会館が運営されることにより、機械設備などの保守点検業や清掃業、警備業、印刷業、飲食業、小売業、宿泊業などの県内産業の需要の増加によるものであり、32億5,000万円となります。

②第1次間接効果は、直接効果として各産業の需要が増加することにより、その業種で使われる材料の生産が増加いたします。例えば、印刷業では印刷に使用する紙やインク、飲食業では提供する食材や飲物などの県内産業の生産の増加によるものであり、10億2,000万円となります。

③第2次間接効果は、直接効果額及び第1次間接効果により雇用所得が増加し、消費も増加することにより、新たに発生する様々な商品の生産の増加によるものであり、5億6,000万円となります。

したがって、直接効果額と第1次間接効果、第2次間接効果をあわせた茨城県内への経済波及効果は48億3,000万円と試算されます。

説明は以上でございます。

○渡辺委員長 はい。ありがとうございます。

それでは、ただいま執行部から説明のありました内容について、この内容は、前回の第14回の当特別委員会において資料請求等がありましたものを入れたものでございます。この件について、何か御質問等がございましたら、発言を願います。

福島委員。

○福島委員 前回は質問して、そのお答えを今日いただいたわけではありますが、まずもって、芸術文化に対する水戸市の熱意であります。本日出されました資料からいけば、総支出額が5億8,000万円かかりますよと言って、それは非常に安いですよという意味なんですよ。

一番下の自治体負担率、これも63.8%であります。しかし、水戸市は水戸芸術館を持っております。芸術文化は大変大事なことでございますが、水戸芸術館の経費をプラスして、それで市民割合を出さなければ、将来の人口減により市民の負担率が上がりますと財政硬直化になります。そういう面で、本来、水戸市と同等の市を比較することでやってまいりました。そして特に、この関東の宇都宮市とか川越市とか、類似施設としては、あと佐世保市のところでございますが、そういう面からすると、なぜ水戸市がこれだけの経費を使えるかということでもあります。

特に水戸芸術館があって、一応、水戸市民は人並みな芸術文化を受けているわけですが、その経費もあわせて、芸術文化に水戸市が幾ら財源を負担すれば将来の水戸市の都市像ができていくかということでもあります。ですから、例えば宇都宮市といっても、新潟市といっても、もう60万人、70万人、人口が水戸市の倍以上ある都市が今回は出てきました。そういう面からすると、本当に市民に対する芸術文化の恩恵というものがどの程度かということは、私どもは、市民会館がこの市役所の場所にあるときに造りましたが、そういう面では、今回は、水戸芸術館はそれなりの高尚な文化ということで、一般的にカラオケとか卒業式とか、それから学校の発表会とかそういうものが市民会館でなされるわけでありまして。そういうことになると、市民が等しく誰でも使える市民会館が必要なわけでありまして。

そうすると、これに対して幾らでもお金をかけていいかということではなくて、人並みな市民会館である必要があると思うんです。ですから、もう執行部では考えができていますとは思いますが、この総支出額5億8,000万円ということでございますが、そして、自治体負担率が63.8%ですよ。ここの5億8,000万円と同等6億円の水戸芸術館の費用を足しますと120%になっちゃうんですよ。

そういう面で、本当に市民が望んで市民の生活が将来において苦しくなるのかならないのか、その考え方はどうなんですか。一切水戸芸術館を無視して、新市民会館だけを出すと。私は、同じ地域ですから、あわせたもので、やはり水戸市の人口と、全国で同等のところを比較対象にすべきではないかと。

ですから、今回の新市民会館も、先ほど申し上げたように幼稚園の卒園式でも、それから学校の卒業式でも、またカラオケ大会でも、学校の発表会でも、町内会の集まりでも何でも使える、そういうのが必要なわけですよ。

そういう面からすると、これに対して、やはりほかの都市と比較して、水戸市の27万人と人口が同等の都市の市民会館と比較して、少しでも無駄な経費がかからないように、私は委員長に申し上げておりますが、造ることに反対ではありません。造ることは大賛成です。ただし、将来の都市像からすれば、どんどん人口が減っていくのに大きな経費がかかっていくということでもあります。

もう一つは、前回聞いたんですが、この新市民会館の管理運営をする会社と協定を結ぶわけですが、そこが、人数が何で多いんだって、この前尋ねたら、25人も人手が要るんだと。私は、これから協定を結ぶ管理運営会社とは、どこをやると言ったら最初からもう25人も要ると。もう、その会社と裏話ができていくんじゃないかと、こういう誤解を招く発言もあるんですが、どのようにして少しでもお金を少なくして有

効活用していくのか、その辺をお願いします。

○渡辺委員長 ただいま福島委員さんのほうからの質問なんですけれども、このいわゆる運営経費の件が一つと、あとは管理運営の人員の件だと思うんです。

また、今回水戸市の場合、新市民会館と水戸芸術館といういわゆる市民の文化芸術に関する方向性の同じものが2つ併設しているというところで、福島委員さんの御意見はですね、この自治体の負担率が、この同じ方向性の2つの施設によって、経費が高まって財政的なところに問題が出てこないかというようなことが一つだと思います。

もう一つは、水戸市の場合の管理運営のほうで25人というこの数字だった。それで、それが宇都宮市は17人であると。これ大分、約8人多いんだけど、これを経費として、もう少し削減すべきところもあるんじゃないかというようなことですよ。

〔「はいそうです」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 では、そういうことについて、お答えを願いたいと思います。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

経費、人数等についてでございますが、前回、想定している人数として25名ということで御説明申し上げましたが、前回は、いろいろ御意見をいただきましたので、それについて、さらに精査させていただいて上限額の削減に努めてまいりたいと考えております。

〔「何、まだ待つ、もうこれで終わりとは違うの、まだ出てくるの。」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 いや、あのね、この25人という指摘が福島委員からあったので、さらに精査をして、今度25人を削減していくということですよ。何人かは削減できるんじゃないかということで、今、御答弁いただきましたので、上に増えるってことじゃないんです。下げる努力を今からしますという答弁でよろしいですよ。

〔「ちょっと委員長、この自治体負担率はどのぐらい下がるの」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 水戸芸術館の天津常務が来ていらっしゃいますので、例えば、今のこの新市民会館のね、自治体負担率が約63.8%となっていますけれども、今、水戸芸術館さんのそういった部分というのも分かるんですか。

○天津公益財団法人水戸市芸術振興財団常務理事 はい。分かります。

その前に、水戸芸術館と新市民会館の役割ということで、ちょっと話をさせていただきます。

水戸芸術館は御存じのように、平成2年、1990年、福島委員がちょうど議長さんのときに開館したわけなんですけど、運営の基本理念としては5つございまして、新しい芸術文化を創造する、国際的な視野に立って芸術文化の交流を行う、楽しみながら考える、市民の芸術文化活動の拠点となる、都市の活性化に寄与すると5つの方針でやっているんですけど、そのうち特に、楽しみながら考える、市民の芸術文化活動の拠点となるというのは、水戸芸術館では努力はしているんですけど、なかなかまだ十全に役割を果たしていない部分もあると思うんです。ですから、そういうところも今度、新市民会館と一緒に進めまして、多くの市民の人に楽しんでいただけるようにしていきたいというふうに考えているところです。

それと、中心市街地の真ん中にできるものですから、都市の活性化に寄与するということに力点を置いて運営していきたいというふうに考えているところです。

それで、金額につきましては、先ほど福島委員がおっしゃいましたように6億円、それにプラス事業費の補助金ということで7億円半ばぐらいの支出をさせていただいているところでございます。それに対しまして、事業のほうをいろいろ展開しまして、大体、自治体の負担額ということで言えば、水戸芸術館の場合は75.1%ということで、ほぼ新潟市と同様の活動をさせていただいているということであります。

○渡辺委員長 ありがとうございます。

福島委員。

○福島委員 だから、造ることには反対じゃないんだけども、この前からの論議の焦点は、何でほかよりも1億3,500万円も増えているんだという質問に対しての答えがないんだよね。

我々は、この出されたベースに対して自治体負担率が多いから、少なくすべきじゃないかと、金がないから少なくてかそういうことじゃないんですよ。人並みにやるべきだと。で、特に、宇都宮市とか新潟市とかというのは、前は言わなかったか、人口が、水戸市の倍、もう70万人も新潟市はいるわけですよ。やっぱり比較対象っていうのは、比べるということですから、同じ都市像の下に、そしてよりよく現代的なものなんです。だから、経費がかかるものに対して、経費をかけるなって言っているんじゃないんです。人並みな最低限の経費でやらないと、将来水戸市は潰れちゃうよと。ですから、芸術文化はお金で買えないんですよ。どんなに比較しても、この芸術がいい悪いは人によって全部違うんです。ですから、お金で買えないものを心の糧にするということなんです。それであっても財政負担、自治体負担というのをなくしてはできないんですよ。だから誰にも納得できるように、誠心誠意ですね、少しは水戸市と同じぐらいのところで、ほか3億円って言ったなら何で1億3,000万円も多くなっちゃうのと、そういう形のことを要求しているんです。いいんです。あとは。

○渡辺委員長 今、福島委員さんのほうから御指摘がありましたように、執行部においては、さらにこの経費の削減、そういうものについて指摘どおりに努力をしていただきたいというふうに思います。

須田委員。

○須田委員 前回の委員会で資料請求として同様なものというので、規模が小さいものが多いのではないかと、ですので、ちょっとこの本当に同じぐらいのものを比較対象としてくれと。当然、福島委員の言うとおりに、人口規模によって今後の負担金が増えてくるっていうのは大変問題だと思っています。その前提ではありますけれども、どうしてもお金がかかるのは、その施設の大きさに関ってくるものであって、そうすると私たちがこれからもうちょっと施設を小さくしようというのは、これは今さらそんな話じゃないので、そこに関しては認めているんですが、まず1つ目に、1点言わせてもらおうと、なぜこの間、こんな資料を出したの。うちのほうは大ホール、中ホール、小ホールとあって、そのほかに楽屋なんか結構多いのに、ウェスタ川越さんとかアルカスSASEBOさん、宇都宮市文化会館というのは、あくまでそれよりずっと小さいほうじゃないですか。当然、延床面積に関してはアルカスSASEBOは同じだけれども。それで私が見ると、所沢市民文化センターなんていうのは、大体一緒なのかなあと。その負担比率も同じなんだという形で。

これね、私は認めるんですが、もう福島委員から話があったので、1点だけ、その同じことになるんですが、お金なんですよ。いろんなものに対して、市民負担は、これからどんどん増えていくと思うんですよ。人口が減っていく、税収も減っていくのが見えてきている。そういう中で、やはりその市民負担を減らすことがすごく大切だと思っています。

先ほど答弁いただいたように、なるべく人数も減らしてうまく効率よい運営をしていきますということでお答えをいただいたんですけども、いただいてそれは納得して、そこに関しては、ぜひやってくださいという問題と、もう一点、ちょっと外れるんですが、運営費の中の県民文化センター、これはあの、委員長、前のことに戻っちゃ駄目だよということであれば、意見だけでいいんですが、県民文化センターとの関連というようなものを考えてらっしゃっての運営費なのかなっていうのが、1つ考えがあるんです。

というのは、建設企業委員会でも、県のほうで施設を建てますよ、水戸市は水戸市で建てますよ、県のほうに聞いたら連携しますよ、連携しますって、じゃ水戸市で何をやるか知っているんですかって言ったら、知りませんよ、こういう形での連携ってなくなっていくと思うんですよ。今度は、県のほうで新しい建物、水戸市のほうももし建てるとすれば、どちらも新しい建物だからこれでも構わない、その中で連携していけば。しかしながら、この新市民会館が建つことによって、同規模もしくはちょっと小さめの県民文化センターという施設がある。そうすると、そっちの老朽化が進んでいることで、そこがもし、やめていなくなるよという話になったときに、じゃ私たちの負担は、県で負担していたホールがあったのに、それがいなくなって水戸市が負担するホールだけになっちゃって、固定経費がかかりますよという考え方では、県から水戸市がもらっただけ、水戸市の負担額が増えただけじゃないですか、固定費が増えちゃうじゃないですかという考えが私にはあります。

それから、県のほうの県民文化センターは、たしか県民文化センターと大洗水族館で何か財団をつくっているかと思っています。大洗水族館のほうに今、大変力を入れているのはよく分かっているので、もしかすると県民文化センターが出ていくんじゃないというような話も、ちらっちらっ聞こえることもあります。そういう運営費の中で、そういうものに対する連携事業とかの運営費ってあるんでしょうかって聞いたら、これ前の問題ですかね、委員長。

○渡辺委員長 うん。

○須田委員 ぜひ、経費をかけないように。それから、せっかく施設が2つあるんだから、連携して、相互に生かして、私たちの、市民や県民の施設利用について、さらに利便性をよくしてほしいという。じゃ意見でいいです。

○渡辺委員長 今ね、大事な話が1つあったと思うんですよ。いわゆる県民文化センターが、あそこが老朽化しているので、将来やめるんじゃないかっていう話ですよ。そういう話の中で、例えば、新市民会館がその役割を担うような形で、この水戸市の、例えば自治体負担額が増えたら困ると。

〔「そう、それだけが増えちゃったら意味がないよ」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 そのようなことがないように指示すべきじゃないのというような御意見だと思うので、その辺の動向もしっかり精査し、把握していただいて、何しろ、今の須田委員さんのほうもですね、このいわゆる経費の縮減に努めてもらいたいということだと思いますので、福島委員さんと同じような指摘だというふ

うに理解をしてください。

袴塚委員。

○袴塚委員 すみません。資料を出していただいております。

先ほど来から、人口規模、経費の問題が出ているようですが、佐世保市さんが約26万人、水戸市が27万人ということで、おおむね同じような延床面積そしてホールの大ささ、こういうふうなことだというふうに思ってます。この両市を比較してみますと、最終的に自治体の負担率が佐世保市で59.8%、水戸市で63.8%、この63.8%が高いのか安いのかという話になると、先ほど、大津参考人から話があったように、水戸芸術館が七十何%かかっているよと。

しかし、この新市民会館と水戸芸術館の、要するにその意図、用途、目的、これが、全く僕は別だと思ふんですよ。水戸芸術館は、やっぱり準備をするのに1週間休んだり、時間を取ったりして芸術性の高いものをやろうとしている。そこで補完できないものを今回の市民会館のほうで、何とか賄って、そして庶民の芸術文化を高める。こういうふうな機能、役割を相反して遂行していくんだと。こういうふうな流れの中で、今回の新市民会館ということになったんだというふうに理解をしている。

この中で、先ほど来から皆さんが心配している、いわゆるその経費の問題なんですけれども、私はこちらの新市民会館というのは、やはり商業ベースに乗せていくべきではないか。そして商業ベースで考えていただいて、やっぱり稼ぐのはきちんと稼いでもらう。そしてその分、市民負担を少なくするというようなことが、私は、この新市民会館に求められる大きな目標だというふうに思っています。

この中で、一つはですね、部屋が大きいとか、小さいとか、たくさんあるとかということで、人数の問題、先ほど福島委員のお話の中にもありましたけれども、それは業者が考えることであって、まず水戸市が積算するときに考える話ではないでしょう。運用の仕方っていうのは、水戸市が8時半から、例えば夜の8時半まで運営するんだ、9時半まで運営するんだとすればですよ、それは、そういう流れをきちんとやってもらうために入札をかけるわけですから、その人員配置とか何かについては、入札者が考える話だと思います。

それから、もう一つは、自主事業の中でアルカスSASEBOさんは約1億円を稼ごうとしているんですけれども、水戸市は、7,000万円しか稼ごうとしていないんです。ここでね。

何が言いたいかというと、この自主事業の売上げ減の3,000万円を、自治体負担額から引いていただくと、ここをちょっと考えただけで58.62%に下がるんですよ、自治体負担率が。ということは、そういうふうな考え方を、精査をしていくと、さらに、この58.62%が、さらに減額される可能性がありますよと。したがって、もう一回精査をするという、先ほど課長の話もありましたけれども、もう一度、やっぱりこの委託開始に至るまで、入札開始に至るまでの問題については、きちんと整理をしていただきたい。

それから、今、1番だけですか、委員長さん。

○渡辺委員長 はい。2番もいいですよ。

○袴塚委員 経済波及効果の話が先ほどありましたけれども、経済波及効果については、これは工事とかを含めて水戸市の人がやって、水戸市の人が勤めて給与所得とかいろんな問題があって、消費については水戸市に泊まってもらって、県内に泊まってもらって、そしてお土産を買ってもらってという、水戸市もしくは水戸の近隣で経済効果を発揮していただかないと。工事に関してもそうですよね、運営に関してもそうです。

そうしますと、こういう委託をされている団体っていうのは、やっぱりお金の高い人って東京から来ると思うんですよ。そうすると水戸市には、この経済効果はないですよ、その人たちの給与所得についても。ですから、入札に関しては、やっぱりそういうところの、水戸市もしくは茨城県の経済効果が48億円あるという算出根拠が何なのか。それをきちんと守るためには、どういうふうな雇入れ、どういうふうな事業の推進、こういうものをしていただかないと、その経費が出るのか出ないのか。そういうことについて、しっかりと論議を重ねていただいて、入札調書の中にも、ある程度そういうものが確保できるような文言を入れながら、この事業については推進していかないと、今、水戸市のもくろみどおりには、なかなか進まないんじゃないか。

しかしながら、市民要望が強いことですから、しっかりと早く論議をしていただいて、早急な完成を望みたいというふうに思います。

○渡辺委員長 今ですね、水戸芸術館と新市民会館、いわゆる役割分担をしっかりと同時に、新市民会館の運営事業に当たっては、指摘されたように収入というものが、やはり幾らかでも高まること自体が市民負担の削減につながるというようなことで、貴重な御意見なので、それをしっかりと受け止めていただきたいと思います。

はい。黒木委員。

○黒木委員 まず、第1点目、ちょっと確認させていただきます。

今日いただきました資料①の管理運営費、自主事業費、ここに両方とも、支出、収入、差額ということで出ておまして、管理運営費の差額で3億3,000万円、また自主事業費の差額で4,000万円、これを足して自治体負担額、この表を見ますと、～3億7,000万円ということで出ておりますけれども、要はここで管理運営費、自主事業費どちらでも収入が上がれば、自治体負担額の3億7,000万円が下がってくるということでもよしいのか。もう一度この表の説明をお願いします。

○渡辺委員長 はい。篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 御指摘のとおりでございます。

○渡辺委員長 黒木委員。

○黒木委員 では、3億7,000万円がこれで、自主事業費、管理運営費、いろんな企画で収入が上がれば、興行収入が上がることによりまして、水戸市の負担が少なくなってくるということで、逆に言えば、3億7,000万円ぐらいの、もうちょっと頑張つて、いい、大きなイベントをやれば、まあゼロもあり得るということ、まあ極端ですけれども、そうなってくるということで、こういうところを見ますと。

もう一点お聞きしたいのは、これから新市民会館は、計画では開館まであと2年かかるという中で、国際会議、また日本の全国規模の会議等、コンベンションですね、こういう部分っていうのは、2年前の今の段階で、果たして持ってこられるのかどうなのか、その辺をちょっと答弁いただきたい。

○渡辺委員長 はい。先の話なので、将来的な展望としてコンベンション機能が十二分に生かされるのかと、またそういうものについて検討しているのかということかと思しますので、今の現時点でのお考えをお示しください。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

全国規模の催物ですとか、そういったものにつきましては、現段階でも新市民会館のオープン等についてのお問合せをいただいております。オープンした際には、ぜひ使わせていただきたいというなお問合せを幾つか既にいただいております。国際関係につきますと、まだそういったものはありませんが、そういったものはなるべくお話をお伺いさせていただいて、ぜひ新市民会館をお使いいただきたいと考えております。

○渡辺委員長 黒木委員。

○黒木委員 ぜひこの部分、頑張って誘致をしていただきたいというふうに思います。

もう一点お伺いしたいのは、この自主事業に関する、水戸市でやる事業に関しまして、内容等を検討していらっしゃるのかどうか。ここで、こんな金額が出てきておりますので、何かしらの根拠がなければ出ないと思うんですが、どのような企画を現時点で考えているのか、考えていないのかお伺いいたします。

○渡辺委員長 現時点の現況ですね。

篠原課長さんでよろしいですか。はい。篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

現在も、水戸芸術振興財団のほうといろいろ協議をさせていただきながら、自主事業としてどういったものがいいのか、そういったものを今進めておまして、固まり次第、また御説明をしたいと頑張っておりますが、進めているところでございます。

○渡辺委員長 黒木委員。

○黒木委員 あと2年ですので、この辺は先ほどお伺いしたとおり、自主事業で収益が上がれば、自治体負担が下がりますので、ぜひとも、その辺もしっかり進めていただいて議会に報告いただきたいというふうに思います。

また、この新市民会館を建設するに当たっての計画策定の目的の中に求められる施設像ということで、著名なアーティストの公演、開催ができる施設ということで、当初うたわれております。この著名なアーティストの公演が持つてこれるかどうか、ここがこの管理運営費、どこの民間企業に任せるのか、その方々の力量にかかってくるというふうに思います。この著名なアーティストを持つてくるためには、やはりそれなりの実績がある企業になるのか、団体になるのか、そういうところが、しっかりとした企業でないと持つてこられないというふうに素人ながらも考えられますので、この当初の目的の著名なアーティストの公演が開催できる、そういう事業が実際に実施できる事業者を選定していただきたいというふうに考えているんですよ。こういう部分では、執行部のほうはどういうお考えをお持ちなのかお伺いいたします。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

黒木委員御指摘のとおり、市民に喜ばれる、そういったアーティストの公演とか、そういったものも当然行ってまいりたいと考えております。今、残念ながらコロナ禍の状況でございますが、指定管理者が決まる前から市としてもいろいろなプロモーターに、そういった御説明に上がって、ぜひ新市民会館を使っただけのような、そういった取組をしていきたいと考えております。

○渡辺委員長 黒木委員。

○黒木委員 あと、3.11の東日本大震災が発生してから10年たちました。あと2年後にこの市民会館が完成ということですので、あとは中身の問題だと思います。中身をしっかり準備していただいて、もうあつという間に開館を迎えてしまいますので、どうかこの部分は企業がしっかり全国的なアーティストを呼んでこられる、また事業を持ってこられる、そういうところでやはり収益を上げていただいて、水戸市の負担が減るように、先ほどから議論されておりますように、水戸市の負担が少なくなる、そのための事業者選定というのをお願いしたいというふうに思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○渡辺委員長 はい。ありがとうございます。

松本委員。

○松本委員 先般私が申し上げましてですね、比較対象になれる都市を出してほしいというようなことで、今回の委員会に2市が追加されて出されている。これは先ほども、福島委員のほうからも出ました。参考になりませんが、人口的には。新潟市なんか79万人近くいます。所沢市だって34万人近くいます。これを比較してパーセントで見ても、これは水戸市の負担率が高いんじゃないか、私はそう思うんです。

何で、前回私が申し上げた、水戸市と同じような都市を出せなかったのかなど。こういう人口で、参考にしてほしいって言われたって、ちょっとこれは難しい。判断に迷う。こういう問題が1つあります。

だから、全国に芸術館なんかなくて、市民会館がその役割を果たしている同じような都市というのが、全国のどこかにあると私は思いますよ。水戸市には水戸芸術館があるの、その隣にこれができるわけよ。できることは私も賛成です、早く造ってほしい、市民の皆さんも望んでいます。だけれども、前は、宇都宮市を対象として何で宇都宮市よりも1億2,000万円以上も自治体負担額が高いんだというようなことから、この問題になっていったわけなんです。ですから、その問題を、私はこの所沢市と新潟市の新しく出された都市を参考にするということは、ちょっとなかなか難しい。人口からして難しいと思う。じゃ、その2市の中に芸術館ってあるんですか。それが1点ね。

それで、経済波及効果が48億円と言われてますよね。その算出基準というのも私も分からない、はっきり。水戸芸術館だけだったとしたら、今のままの経済波及効果というのはどのぐらい持っているんですか。水戸芸術館というのは、他市から随分見に来ていますよね。あれは120億円くらいかけたんですから。全国でも珍しいですよ。だから、全国からも、そっちこっちから視察に来ましたよ。しかし、同じようなものができた都市はない。

だから水戸芸術館だけで経済波及効果というのはどの程度今上がっているんですか。それも一つの大きな基準になるんじゃないのかな。新市民会館だけで48億円も経済効果が上がったとすれば、芸術館の芸の字もなくなっちゃうよ。と私は思う。何であの当時に120億円もかけて建てたのかという問題になっちゃうでしょ。だからもうそれはそれでいいの。できているものはね。だけれども、今回は経済波及効果が48億円。この新市民会館ができることによってそれだけの経済波及効果があるという。これはどういうことで、水戸芸術館とかそういうことを絡んでの話なのか、新市民会館だけの話なのか、この辺がちょっともう少し明快に分かれなというふうに私は思います。

○渡辺委員長 それでは、今の松本委員さんの質問の趣旨はですね、いわゆるこの48億円の経済波及効果

というようなものの算出の根拠とか信頼度、そして、なおかつ水戸芸術館さんのこの経済波及効果っていうのは、水戸芸術館さんの場合は経済的なものもあるだろうし、また水戸市のブランドイメージのいわゆる効果とか、そういう様々な効果があると思うんです。数字的なものが出ていれば、またその話をしてもらおう。それとあと人口的な部分でどうなんだ、他のいわゆる人口が同等の都市と比べてどうなんだということなので、ちょっと難しい質問ですけども、御答弁できますか。

まず、大津常務理事。

○大津公益財団法人水戸市芸術振興財団常務理事 今、松本委員の質問のうち、水戸芸術館の経済波及効果についてですけども、実は水戸芸術館のような運営している施設がないということで、なかなかモデルケースがないということで、今まで、残念ながら経済波及効果の数字は具体的には出しておりません。それで、昨年30周年を迎えたのを機に、やはりあの経済効果というのを30年遡って、実績を踏まえてつくろうというふうに考えていたんですけども、このコロナ禍で、ちょっと調査のほうは今のところできておりません。ですから調査ができれば、その経済波及効果の報告はさせていただきたいというふうに考えております。よろしくをお願いします。

○渡辺委員長 篠原課長、48億円の説明を。

○篠原新市民会館整備課長 松本委員の御質問にお答えいたします。

この48億円に関しましては、水戸芸術館は含まず、新市民会館の運営に関して及ぶものでございます。

〔「誰がつくったのこれ」と呼ぶ者あり〕

○篠原新市民会館整備課長 こちらは、茨城県のほうで出しております経済波及効果分析シートという計算ソフトがございまして、そちらを用いて、この金額のほうを出させていただいております。

○渡辺委員長 はい。松本委員。

○松本委員 委員長ね、私は前回、水戸市と同等の都市の事例を出してほしいって言ったの。だから今回、この2市については、所沢市と新潟市は、水戸市の何倍あるか分からないでしょ、78万人もいるんだもん、新潟市なんか。そういうところを出されたって、参考になりますかって言ったんだよ。前回私はそう言ったの。ね。水戸市と同等の都市の市民会館のそういう自治体負担の割合。だから宇都宮市が多いから宇都宮市だって約2倍近くあるわけですから、だからこれも参考にはならないだろうと言って、それよりも、宇都宮市よりも自治体の負担金が1億2,000万円も高かったんだと。だから同じような都市を出してほしいということと言ったんですけども、これはそういう都市があったの、なかったの、全然調査はしなかったの、調べなかったの。

○渡辺委員長 人口が同程度で、人口だけで全てを比較するのは難しいんですけども、なぜその人口の同じようなところを調査しなかったのかということなので、その後の調査について、答弁できることで結構ですからお願いいたします。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、その人口規模についてというところでございますが、まずは、その新市民会館の大ホール等については2,000席のホールを整備してまいりますので、まずその2,000席というホールを持っている自治

体を探させていただきまして、なおかつその同じ人口規模のものにつきまして、なかなか同じ2,000席を持つものがなかったものですから、この2市の施設を対象とさせていただきます。

○渡辺委員長 松本委員、どうでしょう、次の機会のときにも、今これで結論を出すということでもないの
で、次の機会を見つけて、同程度の人口を持つ、いわゆる市町村で施設を持っているところ、そういうところ
をちょっと出させていただきます。今日はちょっと出ないと思うんですね。ですから、そういうことで次の
機会にまた、この件については出していただきたいということによろしいでしょうか。

〔「はい。いいですよ」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 はい。それでは飯田委員。

○飯田委員 前回、この経済波及効果について資料をお願いしますということで、本日出していただきました。
この新しい市民会館がオープンしまして、運営がされれば、1年間で48億3,000万円の経済波及
効果があるということの説明が前回あったんですが、さらりとした説明だったものですから、もう少し詳し
いことを聞きたいと思っております。

総務省の指導によりまして、県レベルあるいは政令指定都市におきましては、こういった産業連関表を
使って、いろんな施策の経済波及効果などをつくっているようでありますが、あまり一般市、中核市がどう
か分かりませんが、やっているような状況はないように受け止めております。それで、いろんな資材
とか労働力を投入して、その結果としまして消費財が生産であったり、あるいはサービスが新たに生まれ
たりということで、そういったことで経済波及効果が上がるわけですが、ちょっと今回出していただいた資料
の中で質問したいことがあるんですが、この四角の上段にあります運営によって発生する需要額のうち、人
件費のうち消費される額というのが、ここには1億1,600万円とあるんですが、人件費全てが消費され
るということではなくて、内訳があるんですが、その辺のことについて1つ説明を願いたいのと、あと一番
大きな数字でありますけれども、来館者等の消費支出、これは33億9,100万円とありますけれども、
これはどういう中身なのか。例えば来館者が来たときのバス代とか交通費とか、あるいはそこで消費しまし
たお弁当とか、いろいろあると思うんですが、そういったことについて質問したいのが1点です。

それと、今言ったところの中で、今度は下の段には48億3,000万円とありますが、これはあくまで
も水戸市じゃなくて県内の経済波及効果ということでありまして、この前、私ちょっと勘違いしまして、こ
の48億円というのも1年間で水戸市の経済波及効果があるのかと思ったら、これは県内ということで、そ
れは分かるんですが、この県内分には水戸市の分も含まれるという意味でしょうか。

その2点をまずお尋ねしたいと思います。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

まず48億円には県内の経済波及効果でございますので、水戸市の部分も当然含まれます。

もう一つの御質問でございますが、人件費のうち全てが消費されないのではないかとということでございま
して、飯田委員のおっしゃるとおり、人件費のうち各家庭でもそうなんですが、保険ですとか貯蓄、そう
いったものを除いた可処分所得のうち、どのくらい消費に回されているのかというものが、総務省のほうか
ら出されておまして、水戸市の2人以上の世帯の平均的な消費者志向、これが65.9%と示されてお

ますので、それを掛けた金額が1億1,600万円ということになっております。

もう一つ、来館者等の消費支出につきましては、茨城県が示しております観光入込客の動向に基づきまして、来館者等の人数を県外からの宿泊客、県外からの日帰り客、県内からの日帰り客に分けて算出した人数に、茨城県が示しております客1人当たりの交通費や宿泊費、飲食費等の支出額を乗じて算出した額と利用料金等の収入を合計したものがこの金額となります。

○渡辺委員長 この経済波及効果、48億3,000万円は県内全体でしょ。

○篠原新市民会館整備課長 県内全体でございます。

○渡辺委員長 それでよろしいですか。

飯田委員。

○飯田委員 そうしますと、この経済波及効果の48億3,000万円、その中に水戸市も入っていますけれども、水戸市の方は、その48億3,000万円のうちのどのぐらい金額になっているのか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

明確にその割合が出ているわけではございませんので、お答えはできないんですが、ただ新市民会館に来られる方々を対象としておりますので、ほぼ水戸市のほうに経済波及効果があるものと考えております。

○渡辺委員長 ほかに。時間がちょっと迫っていますので。

土田委員。

○土田委員 ありがとうございます。まず1つ目のほうで聞きたいんですけども、今回例示されました所沢市と新潟市の指定管理をされているのは、こういったところでしょうか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

所沢市民文化センターにつきましては公益財団法人所沢市文化振興事業団、新潟市民芸術文化会館につきましては公益財団法人新潟市芸術文化振興財団です。

○渡辺委員長 はい。土田委員。

○土田委員 ありがとうございます。

そうしますと、今回の資料だと、ウエスタ川越以外は公的な財団が指定管理指定ということになりますよね。

それで、もう一点、先ほどからの議論でちょっと確認したいんですけども、大きなイベントを持ってくれば収入が上がるみたいな話になっていますけれども、新市民会館の収入となるのは、貸館の場合は利用料金だけですよね。公演収入とかは借りる方の利益になるっていうことでいいですよね。

○篠原新市民会館整備課長 施設の収入につきましては、管理運営費にあります利用料金は指定管理者の収入になります。あと自主事業費の収入は指定管理者の収入になります。

○渡辺委員長 土田委員。

○土田委員 ということで、ちょっとおかしな勘違いが起きるといけないので、有名アーティストが来た、大きなイベントができたからといって、稼げる施設ではないということです。新市民会館の収入というのは、

貸館の利用料、自主事業の場合は、これ資料を見てもらえば分かりますように、いろんなところで頑張っていてやっていますけれども、これを黒字にしていけるのはなかなか難しいことで、赤字覚悟でそれぞれ自治体の、市民の文化のために行っているというのが現状だと思います。なので、これは意見ですけれども、イベントが来た、有名アーティストが来た、これで市民会館自体が稼ぐということはないということを確認したいと思います。

もう一点、もう一つのほう、経済波及効果48億円のほうですけれども、私も前回の資料では、曖昧な表現だったので、てっきり水戸市で48億円を見込んだのかと思いましたがけれども、今回は、茨城県全体であったと。

では、2つ聞きます。

1つは、飯田委員さんが聞いていましたけれども、来館者等の消費支出などが計上されていますけれども、これは今までどおり60万人で見込んでいる数字でしょうか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

こちらの根拠につきましては、年間来館者数60万人、プラスお客さんということではなくて、その公演する際、演じる方ですね、そういった方々の人数も含めてございます。

○渡辺委員長 はい。土田委員。

○土田委員 ありがとうございます。

60万人、実現はほとんど不可能だと私は思っていますけれども、これにプラス主催者側の人数も加えたということですね。はい。夢物語だと思いますけれども。この48億円の経済波及効果っていったらどんなものなのかと、ちょっとちょうど同じ数字がありまして、NHKの朝ドラ「エール」というのが人気だったみたいですがけれども、福島県での経済波及効果が48億円だったそうです。ちなみに、「あまちゃん」は32億円、「ひよっこ」が6億円だったそうです。経済波及効果っていうと、皆さんのイメージではこれに関して様々な経済が動いて、人が動いて、その地域が潤うということで考えると思うんですけども。

もう一つ、茨城県では、一昨年つくば市でG20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合がありました。3日間の国際会議でこのときの県が示しました経済波及効果というのが10億円。そのうち、つくば市の経済波及効果が9億円だったそうです。20か国のG20、その前の前の年のG7のときには、つくば市は3日間で3億円、そのぐらいの経済波及効果があったということになります。単純には考えられませんが、こうした世界各国から首脳が集まるような大きな国際会議をやっても、まあ10億円ぐらいなので、この新しい市民会館で48億円の経済波及効果を出すには、こうしたものが年間に何回も来なきゃいけないかと思ひまして、本当に、これ……

○渡辺委員長 土田委員。あの端的に。

○土田委員 この60万人を達成できる根拠は、ちゃんとあるんでしょうかっていうことです。お願いします。

○渡辺委員長 あの48億円は県内全部でという話でしたよね。ですから、それを踏まえて、篠原課長、今出せないでしょ。捕らぬタヌキの皮算用なんだから。

これから努力していくってことでいいんじゃないですか。芸術文化はね、さっきほら福島委員が言っているように、お金だけじゃないんだから、ね。はい。

じゃちょっと答えてください。

○篠原新市民会館整備課長 根拠といたしましても、これまでに何度も御説明しておりますが、各諸室の利用率ですとか、そういったものを踏まえて、十分達成できると考えております。

○渡辺委員長 はい。ありがとうございます。

萩谷委員。

ダブらないようにお願いしますね。

○萩谷委員 じゃ、私の方から、これまでの質疑で大分分かったところがありますので、1点だけ確認なんですけれども、この経済波及効果のところなんですけれども、東京の指定管理業者になった場合と、水戸市に本拠を置く指定管理業者になった場合とで、この経済波及効果の数字が変わってくるんじゃないかというふうには私に考えているんです。この数値自体は、水戸市に本拠を置く指定管理団体ということで見ているのかどうか、その辺をちょっとお答えください。

○渡辺委員長 まだ公募していないでしょ。

一応、今の質問は東京に本社機能、所在地を持っているところと、水戸市に持っているところでは、その経済効果が違ってくるんじゃないかという質問かと思います。はい。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

事業所が東京かそうでないかによって経済効果は変わってくるのかということですが、ここで算出しておりますのは、新市民会館を運営することによって動くお金ですとか、人ですとかそういったものを考えておりますので、どこに事業所が、本社があるかということは関係はございません。

○萩谷委員 そうなると、例えば、水戸市に本社があった場合の算定ということも可能なんでしょうか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 計算上は同一でございます。

○渡辺委員長 ほかにございませんか。

田中委員。

○田中委員 1つだけ聞きます。

資料①のほうなんですけど、平成30年度の類似施設の実績比較表ということなんです。去年8月の当委員会でも私は申し上げたんですけども、今コロナ禍で劇場施設が不況だということですから、今のリアルな現状を比較として出すのも当然説明責任じゃないかというふうに思うんですけども。そこで水戸芸術館のほうは、このコロナ禍、間もなく1年ですね、例えばお客さんの入りとか、施設入場料の割合はどれぐらい減になっているのかということが分かれば教えていただきたい。

それから、新市民会館整備課のほうは、これは平成30年ベースですから、例えばウエスタ川越だと年間43万人が来たとかっていうことを基にした数字だと思うんですけどもね。現状どうなっているか。それぞれお答えください。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

ただいま田中委員のほうから御質問にあった件については、調査等はしてございません。

○渡辺委員長 はい。ほかにありませんか。

[発言する者あり]

○渡辺委員長 それではですね。今日これを参考にですね。水戸芸術館のほう去年の実績を。じゃ大津理事。手短にお願いいたします。

○大津公益財団法人水戸市芸術振興財団常務理事 令和2年、去年の4月から今までの実績ですけれども、事業は大体3分の1が中止、延期になっております。それで開催する事業もですね、今、入場者数を定員の半分にしてやっておりますから、チケット料金そのものは大きく変更はしておりませんが、チケットの枚数を半分しているということで、単純に言えば入場料収入は、これまでの半分になっているというのが現状です。

以上です。

○渡辺委員長 それでは、ほかにないようですので、参考人におかれましては、大変お忙しい中、御協力をいただきまして誠にありがとうございます。

以上をもちまして、本日の特別委員会を散会いたします。

御苦労さまでした。

午後 2時14分 散会